

パキスタンイスラム共和国における初の女子建築高等職業教育の開始とジェンダーイコリティー活動の継続

正会員 伊藤 稔 君
レイルウェイロード技術短期大学建築学科 殿

パキスタンでは隣接するアフガニスタンの混乱の影響を受けテロが多発している。テロリストは女性が教育を受けることを認めず、同国北西部では少女たちが通う小学校を破壊したり女子大生をターゲットとしたテロも起きている。また、女性の識字率がアジア諸国のなかでも低く、同国におけるジェンダーイコリティー形成の妨げにもなっている。

本業績は、ラホール市にあるレイルウェイロード技術短期大学建築学科において、同国初となる16歳から18歳までの女子の建築職業教育の実施を目指したプログラムである(短大における初の男女共学の試み)。本業績の第一受賞者は JICA 派遣専門家として同校に赴任しているが、当初女子教育は JICA プロジェクトの目標には入っていなかった。困難な状況のなかで、共同受賞者である同僚教員たちとともにパキスタン政府に働きかけ、本プログラムの立ち上げを実現したのである。

パキスタンは西欧式建築教育の形態をとっており、構造教育は完全に土木工学科に属している。すなわち、建築史、製図、計画等の科目が80%で、測量、建築材料等の科目は残りの20%に過ぎない。しかし、卒業生には建築現場に就職する者も多く、構造分野の知識も必要との認識から、本プログラムではコンクリート実習などの科目が導入されている。これまでの建築教育で実施されていなかった構造分野の実習が加えられたことで、従来公務員、銀行員、看護師などに限られていた女性の就業先が建築分野にも広がることが期待されている。また、現在同校には72名の女子学生が就学しているが、全員学習意欲が高く優秀である。

このような本プログラムによる活動が認められ、日本政府による無償資金協力で2013年3月には建築学科の専用教室棟と構造実習室が完成する。また、本プログラムの成果はパキスタン政府にも理解され、同校だけにあった建築学科が2014年には3か所の技術短期大学にも新設されることが決まっている。

以上、本プログラムは、パキスタンにおける女子の建築職業教育の発展に大いに寄与するとともに、ジェンダーイコリティーを推進し豊かな社会を形成するための優れた試みであり、その功績は高く評価できる。

よって、ここに日本建築学会教育賞(教育貢献)を贈るものである。